

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (低)・毎日、音読カードによる家庭学習を取り入れることで、語のまとまりで読んだり、滑らかに読んだりできる児童が増えた。
 - ・言葉の宝箱と称した時間に、既習の文字を使った言葉や短作文作りをし、掲示することで語彙力が高まった。
 - ・平仮名、片仮名を正しく読んだり書いたり、促音や拗音、助詞を正しく使うことができない児童がいる。
- (中)・読書学習司書の連携による効果か、読書に親しむ児童が多い。
 - ・既習漢字を積極的に使う児童が多い。
 - ・作文に意欲的な児童が多く、楽しんで文章を書くことができる。
- (高)・毎日の音読の宿題によって、物語の概要や説明文の主張などを読み取れる児童が多いため、継続して取り組んでいく。単元ごとの初発の感想、「書くってのしいね」の活用、宿題の二行作文等、「書く」学習を積み重ねた。序論・本論・結論といった一定の型が提示されていれば、自分の考えを書くことができる。

(2) 課題

- (低)・文字の拾い読みで、滑らかに音読する（語のまとまりで読む）ことが難しい児童と、そうでない児童との差が大きい。
 - ・文章を読んで内容を理解したり、内容に関する質問に答えたりする力に差が見られる。
 - ・平仮名、片仮名を正しく読んだり書いたり、促音や拗音、助詞を正しく使うことができない児童がいる。
- (中)・物語文では文中の叙述を根拠に文章を読み取る力、説明文では段落ごとの要点を読み取り指定された条件で要約する力がそれぞれ弱い。対策として、国語辞典の活用や教科書「言葉の宝箱」や「書くって楽しいね」等の活用を通して語彙力を高め、正しく文中のキーワードを押さえて正しく読み取ったり表記したりできるようにする。加えて図や挿絵、資料にも着目して文章と照らし合わせて正しく読み取る力を身に付けさせる。
- (高)・物語文の読解では、心情や様子を捉える力は付いてきているが、その根拠を論理的に捉える力が弱い。対策として、説明文の読解では、構成を理解し、筆者の考えやその具体例となる文を読み取る力を身に付けさせる。また、「書く」活動において、自分の考えをもち、根拠となる情報に基づいて文章で表現する力を身に付けさせる。与えられた条件や分量で自分の考えをまとめて表現する課題にも取り組ませる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・平均正答率は、「漢字を読む」「漢字を書く」「文章を書く」以外すべて目標値を下回っている。 ・領域別においても前年度は「書き」「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」が低い傾向にあったが、今年度は「ローマ字」が格段に低くなっている。 ・記述の問題別に見ると、漢字はおおむね正しく書けているが、自分の考えを明確にして文章を書く力が弱い。	・平均正答率は、概ね目標値に到達しているが、「書くこと」（漢字含む）の領域は全て下回っている。 ・問題別に見ると漢字の「書き」「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」の平均正答率が低い。段落の理解と自分の考えを段落ごとにまとめて書く力、漢字の定着に乏しい傾向にあることが分かる。	・平均正答率は、概ね目標値に到達しているが、「書くこと」の領域は全て下回っている。 ・問題別に見ると「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」の平均正答率が低い。段落の理解と自分の考えを段落ごとにまとめて書く力に乏しい傾向にあることが分かる。
第5学年	・平均正答率は、「情報」「話す・聞く」「読む」以外すべて目標値を下回っている。特に「思考・判断・表現」の「記述」問題では、すべて目標値を下回っている。 ・区の平均正答率も「話す・聞く」をのぞきすべて下回っている。 ・領域別においても前年度は「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」が低い傾向にあったが、今年度は「書くこと」が格段に低くなっている。	・平均正答率は、区の数値を下回っている。 ・概ね目標値に達しているが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「情報の扱い方に関する事項」が低い傾向にある。修飾語などの文法、情報を結び付けて話の中心を捉える力が弱い。 ・問題別に見ると、「説明文の内容を読み取る」の正答率が低い傾向にある。文章の内容を捉えたり、段落の関係を捉える力が弱い。	・平均正答率は、区・全国を上回っている。 ・領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が区の平均を下回っている。 ・問題別に見ると、「説明文の内容を読み取る」が区の平均を下回っている。 ・観点別では、「思考・判断・表現」の正答率が区の平均を下回っている。

	・記述の問題別に見ると、漢字はおおむね正しく書けているが、連用修飾語などの文法、書く内容の中心を明確にしたり、自分の考えを明確にしたりして文章を書く力が弱い。		
第6学年	・平均正答率は、目標値・区や全国を下回っている。 ・領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の正答率が低い。 ・問題別にみると、「漢字を書く」「文章を書く」の正答率が低い。 ・観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも正答率が低い。	・平均正答率は、区や全国の平均と同じくらいである。目標値は上回っている。 ・「主体的に取り組む態度」が低い。 ・問題別に見ると、「報告する文章を書く」「文章を書く」といった、「書く」に関する力が弱い傾向にある。 ・「読むこと」では、「物語の内容を読み取る」の正答率が低い。	・平均正答率は概ね目標値と同じくらいである。 ・領域別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の正答率が低い。 ・問題別にみると、「説明文の内容を読み取る」「文章を書く」の正答率が低い。 ・観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低い。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を下回り、区の平均も下回っている。 ・書くこと、漢字を書くことに対する知識・技能が低い傾向にある。	・区、全国平均、目標値ともに下回っている。 ・指定された文字数や、2段落構成で文章を書くなど、考えを文章にまとめたり、段落を理解して表現したりする力が弱い傾向にある。	・目標値や区の平均を下回っているものが多い。 ・思考・判断・表現の観点と一致する部分が多く、自分の考えを文章にまとめて書く力が弱いことから、そうした問題への経験の少なさからの主体性の低さも考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・前年度より上回ったが、今年度の目標値をわずかに下回っている。 ・「我が国の言語文化に関する事項」に対して、数値が低い傾向にある。	・目標値や全国平均と概ね同じくらいの数値である。 ・物語文や説明文の内容を読み取りは目標値を上回った。前年度同様、自分の考えを文章に表現する力が弱い傾向にある。	・知識・技能ともに思考・判断・表現の観点と一致する部分が多い。修飾語やことわざ等の基礎知識の定着はもとより、書く内容の中心を明確にして書こうとする姿勢に欠けている。

3 授業改善のポイント（観点別）【◎は重点項目】

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎視写や聴写などができる教材を用意し、正しい表記・表現を意識した指導を取り入れる。 ◎短作文や日記など、文章を書く機会を多く設定し、正しい文字や文章を書くことに慣れさせる。 ◎意味調べや新しい言葉に出会った際には、授業内で動作化をしながら言葉と動作を結び付けながら意味を理解させるようにする。	・文章を繰り返し読み、大事な言葉や繰り返し使われる表現などに着目し、理解させる。文章に線を引いたり、文を抜き書きしたりする指導を多く取り入れる。	・国語の時間に音読の時間を設けたり、拗音や促音の学習では、多層指導モデル MIM を授業に取り入れたりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎漢字の学習後は、反復練習とこまめにミニテストを行い、定着度を確認する。また、漢字を文中で使えるよ	・「書くってたのしいね」や「言葉の宝箱」、手本となる作文等を用いて、作文の構成や適切な表現の仕方を身に付ける。	・読書学習司書と連携し、様々な読書活動を通して自発的、継続的に読書に親しむ態度を養う。

う、毎日の宿題に短作文や日記を取り入れ、既習漢字を用いることを必須とし、定着を図る。合わせて漢字の意味を理解させる。 ◎意味調べや新しい言葉に出会った際には辞書を教師から呼びかけをして、積極的に活用し、正しい意味を確認する習慣をつくる。	・文章中の根拠に基づいて正しく内容を読み取ったり、段落の内容を要約したりする活動を多く取り入れる。 また、決められた文字数でテーマについて述べる学習を日常的に取り入れる。	・説明文や物語文等の感想や考えを、小グループ単位で聞いたり話したりして認め理解し合う場を設け、表現することへの自信をもたせる。
--	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎国語辞典や漢字辞典を活用し、修飾語やことわざ、さまざまな言葉の意味を理解したり、語彙力を増やしたりする活動を増やす。 ◎漢字の反復練習を中心に、既習漢字をなるべく意識して文中に活用できるようにする。毎日の宿題に短作文や日記を取り入れ、既習漢字を用いることを必須とし、定着を図る。 ◎読書量を増やし、既習漢字を文中でも目視、確認する。 ◎意味調べや新しい言葉に出会った際には、自ら辞書を引かせるように指導し、日常的に活用することで正しい意味を確認する習慣をつくる。	・物語文は登場人物の気持ちを、説明文は筆者の主張を、叙述を根拠にして読み取る力を身に付ける。また、段落ごとの関係に着目し、段落を相互に結び付けて考えられるようにする。 ・短作文や感想を書く活動などで文の構成や修飾・被修飾の関係について触れていく。また、決められた行数や段落の条件で自分の考えを落とさずに表現する方法も、まずは文型や枠組みを示し取り組ませる。	・「書く」「話す」の学習において、情報や事例をもとに自分の意見を持ち、それを提示することに慣れる。 ・朝学習や各単元の合間、宿題等で、書く活動を多く取り入れたり、決められた平易な文型や文章の枠組みから取り組ませ、抵抗感を減らしていく。